

# 医師の働き方改革

北海道大学医師会  
広島国際大学 医療経営学部

## 江原 朗

この文章をみなさまがご覧になるころには、医師の時間外労働の上限が国によって示され、適切な労務管理に関するセミナー等が開催されていることと存じます。

この原稿を書いております平成31年1月現在、厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」では、医師の時間外労働の上限を2,000時間/年程度とすることで調整されようとしています。

一方、一般の労働者では1ヵ月に100時間、ないしは、2から6ヵ月にわたって月80時間/月の時間外労働があった場合、過労死の認定がなされる目安とされています(厚生労働省、脳・心臓疾患の認定基準の改正について)。年間960時間の時間外労働を超えると過労死の認定がなされる可能性が高いということですから、医師においては「2回過労死してもよい」と国がお墨付きを与えたようなものです。こうした状況は好ましいものとは言えないと思います。

たしかに、昭和の時代の医療を支えた諸先輩も長時間の診療に従事されたと存じます。しかし、医師数と高齢者との比率を考慮しなければ、医師を含む医療資源の有効活用はできません。1985年の65歳以上人口は1,247万人、1986年の医師数は19.1万人(国勢調査および医師歯科医師薬剤師調査)、2015年の65歳以上人口は3,387万人、2016年の医師数は31.9万人です。医師1人あたりの65歳人口は65人から106人へと1.6倍に増えています。「医師は労働者ではない」とか「今の若いものはたるんでいる」とかいった精神論では解決できないくらい医師への負担はこの約30年で増えています。「やさしさ」とか「ノブレスオブリオージュ」といった言葉ではなく、数値を用いて冷静な議論をする以外に、医療提供体制の継続性を保つことはできません。

OECDの人口あたりの医師数の議論がなされま

す。確かに、日本の人口あたりの医師数は少ないのです。しかし、人口あたりの医師数だけではなく、人口あたりのベッド数や人口あたりの外来受診数を加味する必要があります。図は、入院患者に換算した際の患者1人あたりの医師数です。外来患者と入院患者にかかる手間を比較することは難しいですが、保健所に立ち入りの際に必要なとされる医師数は「入院患者16人に1人」および「外来患者40人に1人」とされています(医療法)。つまり、「外来患者は入院患者0.4人に相当する」と規定しているのです。この条件を踏まえて、人口あたりの外来受診数と人口あたりのベッド数(病床利用率の資料がないため、100%と仮定して、病床数を入院患者数と仮定しています)から入院患者数に換算した患者数を求め、患者1人あたりの医師数を求めてみました。この結果、日本は医師0.09人/患者1人と欧米先進国の半分にも及ばないことが分かりました。

精神論では医療現場は回りません。少子高齢化が進み、医療需要が増えていく中でいかに医療職を有効活用するかが問われています。無制限に働かせれば、その地域の病院から医師が流出します。「医師は高給取りだから無制限に働かせてもいい」と住民が考えれば、その地域の医療は崩壊します。また、医療の充実を政治公約に掲げて首長が選出されても、働く環境の整備がなされていなければ、医師を集めることも、医師の流出を食い止めることも不可能でしょう。

継続性のある医療を提供するには、医師の働く環境の整備は不可欠です。そのためには、医師1人が追うことができる仕事量を計算し、それに見合う勤務環境を確保することが不可欠です。2日に1回夜間にオンコールが来るような勤務体制に継続性はありません。医療資源の有効活用のため、医師以外でもできる仕事の他職種への業務移管(タスク・シフティング)および集約化および搬送体制の広域化をすることも必要でしょう。各地域が医療を確保するために、医療資源をどう有効活用するかを検討する必要があります。医師の過労死を防ぐこと、それに伴って若手医師が特定の診療科および地域医療を敬遠することがないよう道民が一丸となって考えることが必要です。

入院中の患者数に換算した患者1人あたりの医師数の国際比較(2014年値)

国	A) 医師数/千人	B) 入院患者数 (病床利用率100%の条件下、/千人)		C) 外来患者数 (/千人・日)	D) 入院換算 患者数 B+(C×0.4)	A/D (医師/患者)
フランス	3.12	6.22	17.26	13.12	0.24	
ドイツ	4.11	8.23	27.12	19.08	0.22	
イタリア	3.88	3.21	18.63	10.66	0.36	
日本	2.36	13.21	34.79	27.13	0.09	
イギリス	2.79	2.73	-	-	-	
アメリカ	2.57	2.83	10.96	7.21	0.36	

OECD Health Statistics 2017.による。

・外来数/千人・日は、外来受診数/人・年に1000をかけ、365日で割ったものである。

・外来患者数は0.4倍して入院患者数に換算した。

・A/D:入院中の患者数に換算した患者1人あたりの医師数

・各国の外来数はOECDデータの「Consultations」より引用。

・外来数/千人・日は、アメリカ2011年値、イタリア2013年値である。

OECD Health Statistics 2017.

[http://stats.oecd.org/index.aspx?DataSetCode=HEALTH\\_STAT](http://stats.oecd.org/index.aspx?DataSetCode=HEALTH_STAT)